

研究推進校事業報告書

<取組と成果のポイント>

① 道徳の授業の工夫

座席表の活用，授業の複線化により，生徒の実態に合わせた授業を行うことができるようになり，活発な道徳の授業を展開することができた。

② 道徳の授業の評価の在り方

ルーブリック評価，ポートフォリオ評価を取り入れることにより，評価基準が明確になり，道徳実践力についても評価が可能となることもわかった。

③ 学校教育全体を通じた道徳教育の推進

年間の行事に合わせて内容項目を選択し，授業を実践することにより，生徒にとってより身近で有意義な授業にすることができた。

1 研究推進校（又は推進地域）の概要

学校名	所在地	電話番号	児童数	備考
新城市立東郷中学校	新城市竹広字宮川162番地2	(0536) 22-0757	255人	

2 研究課題

(1) 道徳の授業の工夫

- ① 生徒のよさを伸ばし，道徳的判断力・実践力を高める指導方法の工夫
- ② 生徒の多様な考えを引き出すための資料の精選と発問の工夫

(2) 道徳の授業の評価のあり方

- ① 道徳の授業や体験活動・行事において生徒が書いた記録等を蓄積したものから，生徒の道徳性の高まりを把握するための方法
- ② 生徒自身が成長を実感し，よさを伸ばそうとする評価の工夫

(3) 学校教育全体を通じた道徳教育の推進

- ① 各教科や領域，特別活動等の指導を含めた全体計画の見直し
- ② 道徳教育を中心においた特別活動の充実

3 研究主題とその設定理由

(1) 研究主題

子どもを捉え，よさを伸ばす道徳教育の在り方
— 友達との関わりの中で，道徳的判断力・実践力を高める生徒の育成 —

(2) 主題設定の理由

本校は「子どもの心が住む学校をめざす」を教育目標とし，生徒一人ひとりの生きる場がある学校づくりに取り組んでいる。この教育目標に迫るために，今年度の道徳教育の重点目標を以下のように設定した。

ア 共に生きる仲間として人格を尊重し合い，集団生活の向上を目指す生徒を育てる。

イ 物事に積極的に取り組み，着実にやり遂げる強い意思をもった生徒を育てる。

ウ 自主自立の態度を伸ばし，自分の行動に責任をもつ生徒を育てる。

本校（生徒数255名，教職員数34名）は，愛知県の東部に位置し，歴史上有名な「長篠・設楽原の戦い」の激戦地跡に建てられている。毎年7月には地元の保存会が中心となって「設楽原決戦場まつり」が行われ，校区の小学生と一緒に中学生も鎧姿で参加している。地元住民の郷土に対する思いは強く，本校運動場の南側と西側には，連合軍が築いた馬防柵が再現されている。地域の方々のこうした取り組みが，生徒たちが郷土を誇りに思う気持ちへとつながっていると感じる。

生徒たちはあいさつや清掃など、自分がやるべきことをきちんとやろうと積極的に行動している。特に3年生はリーダーとしての意識が高く、よりよい学校にしたいという思いが強い。そんな先輩たちの姿は、後輩にとって目指す姿となっている。

明るく素直な生徒たちであるが、その一方で友達とコミュニケーションをとることが苦手で、ささいなトラブルから教室に入れなかったり、保健室で不調を訴えたりする生徒がいる。

このような生徒の実態を踏まえ、3年前から「関わり合い」と「生徒が創る」をキーワードにして取り組んできた。今年度の道徳科でも同様に「関わり合い」を意識し、生徒同士が話し合う場を積極的に設けることによって、他との価値観の違いに気づき、道徳的判断力を高めていきたい。それが学校生活の様々な場面に結びつき、生かされていく方法を考えていく。また、個々の生徒の特性を把握する方法を工夫し、生徒のよさを伸ばすためのよりよい評価の在り方を確立していきたい。

4 研究の概要及び特色

(1) 研究の仮説と手立て

研究の課題を達成するために、次の仮説と手立てをたてた。

【仮説1】

話し合いによる問題解決型の授業を行うことで、生徒の多様な価値観を引き出し、道徳的実践力を高めていくことができるであろう。

<仮説1の手立て> 話し合いによる問題解決型の授業

- ① 座席表を活用することで、主発問に対する生徒の考えを予想し、抽出生を中心とした話し合いによる問題解決型の授業展開を考える。
- ② 生徒の思考に沿った話し合いにするために、発問を複数個用意し複線化を図る。

【仮説2】

生徒自らの成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指すことで、道徳的価値や自己の生き方について思考を深めることができるであろう。

<仮説2の手立て> 生徒のよさを伸ばす評価の方法

- ① 授業だけでなく、体験活動や行事後に生徒が書いた記録などを蓄積し、生徒の道徳性の高まりや実践を把握し、継続して評価するためにポートフォリオ評価を行う。
- ② 1時間の授業で、どのように変容したかを評価するために指導案作成の段階でルーブリックを作成し、評価を行う。

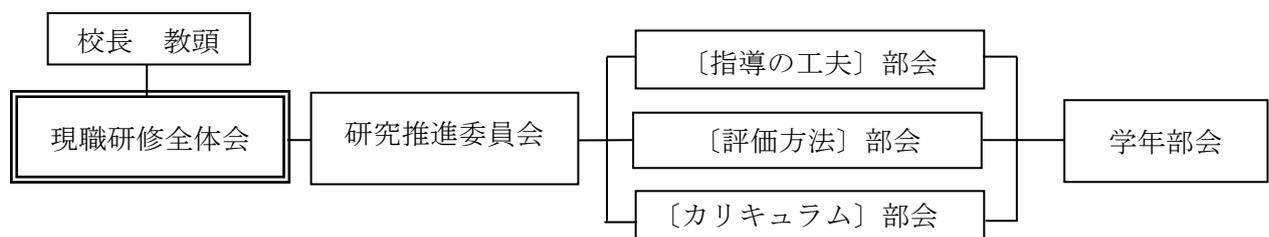
【仮説3】

道徳の時間を要として、行事、他の教科との密接な関連を図ることで、道徳的価値に対する生徒の思いが高められ、実践していこうとする心を育むことができるだろう。

<仮説3の手立て> 学校教育全体で取り組む道徳教育

- ① 生徒の学びが学校生活の様々な場面に結びつき、生かされるように、年間指導計画を見直し、学校行事に合わせた内容項目の指導ができるよう、指導内容を組み直す。
- ② 「関わり合い」を意識し、生徒同士が話し合う場を積極的に設け、他者との価値観の違いに気づかせることで、道徳的判断力を高めていく。

(2) 研究組織



(3) 研究課題にかかわる取組

① 話し合いによる問題解決型の授業

ア 座席表の活用

資料1は、2年生 資料名「研二の迷い」〔2-(3)友情〕の座席表である。本時のねらい「自分の行為が、自分また相手にとって、どんな影響があるのかを考えることで、友情の尊さを理解し、互いに信頼し、向上しようとする気持ちを高める」に対して、教師は「あなたが研二だったらどうすべきか」の主発問を設定した。それに対する抽出生の考えを次のように予想した。

【抽出生A】
今後の大輔との関係を考え、カンニングしたことを教師に言うべきでないし、言えない。

【抽出生B】
悪いことは悪いのだから、伝えるべき。今後の大輔のためにも忠告するべき。

抽出生Aに対しては、生徒22が同じような考えを持つと考えられた。また、抽出生Bについては、生徒52, 53が、大輔との関係を心配しつつも「注意すべきだ」と同じような考えを発言するだろうと予想した。

これらのことから、抽出生AとBの考えを対立させながら話し合いを進めていくことで、様々な価値観が出てくるであろうと考えた。

資料1 「座席表(一部抜粋)」

	22	32	42	52	62
でも、笑 仲良く接す ことができ	友人に気を遣う。話し合いを通して、互いに成長していくために、仲間と忠告したり、協力したりすることの大切さに気づいてもらいたい。	後期級長として、周りを見て行動することができるようになってきた。仲間と高め合うことの大切さに気づかせたい。	真面目な性格で、どんなことにも一生懸命取り組むことができる。体育大会でも、応援の実行委員として、周囲への声掛けを行った。	合唱コンクールのパートリーダーとして、言いにくいことも友達のために言うべきだと学んだ。経験を踏まえた発言に期待したい。	待て、はなりの言いきる大切な場をやりた
	23 抽出生B	33	43	53	63
	正しいと思ったことはやるうとする行動力がある。悪いことは悪いのだから伝えるべきだと考えるであろう。今後の大輔のためにも忠告すべきだと抽出生Aに伝え、学級全体に忠告し合える信頼関係こそ友人関係には大切なのだと考えを深めさせるきっかけをつくってほしい。	自分の考えをしっかりともち、意欲的に授業に参加している。友達の意見を聞き、互いに高め合う行動について考えを深めてほしい。	仲間のよくない行動を訴えてくれることがある。自分の考えをしっかりともち、話し合いの場で発言してほしい。	明るく、前向きな性格。友達のことを考えて、悪いところを正してあげようとするだろう。その考えを進んで発言し、広めてほしい。	
	24	34 抽出生A	44	54	64
でも優しく することが	自分の思いを言葉にしたり、行動にしたりすることができる。高め合うことのできる関係について考えを深めてもらいたい。	友だちの行動に流されやすい。今後の大輔との関係を考え、「言うべきでないし言えない」と考えるであろう。この考えを学級全体に広め、友人関係の難しさについて考えを深めてほしい。また、「仲間と高め合う」という視点の考えを聞くことで、忠告し合うことの大切さに気づかせたい。		自分の思いを優先した言動が目立つ。級友の意見を聞く中で、「友達のため」の行動について考えを深めてほしい。	等 示を 声さ る。
の成長を 行動する	25	35	45		
	正義感が強く、ダメなこと	友人関係に悩みやすい。話し	日常生活の中で、友達を気		

イ 授業展開の複線化

座席表による生徒の捉えから、資料2のような授業展開を構想した。主発問に対する話し合いが進む中で、「今後の大輔との関係を心配し言うべきではない」という考えと、「大輔のために言うべきではない」という2つの点のどちらかに話し合いが焦点化されていくのではないかと予想された。そのため、話し合いを焦点化し、深めるための補助発問を、

- 「今後の大輔との関係を考えたとき、本当に言えますか」
- 「大輔のためになるのはどちらだと思いますか」

の2つにした。話し合いの展開によって、生徒の思考の流れを切りなようにどちらかの発問を選ぶことにした。どちらになったとしても、ねらいとする価値に近づくことがで

資料2 「2年C組指導案(一部抜粋)」

展開	2	資料「研二の迷い」を読み、話し合う。 第1次判断を行う。 あなたが研二だったらどうすべきだったと思いますか。そう考えた理由は何ですか。
15		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【先生に言うべき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当のことを言わないと、先生に怒られる。(54) ・大輔のために言うべき。(53) ・大輔との関係は心配だけれど、悪いことは悪いのだから言うべき。(52) ・不正行為を黙認することはあってはならないし、今後の大輔のためにならない。(B) </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>【先生に言うべきでない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言ったことがばれると恨まれるから言うべきでない。(33) ・大輔からの恩を仇で返すことになるから言うべきでない。(22) ・友達として、大輔のために言わないし言えない。(35) ・悪いとは思うけれど大輔とのことを考えると言えない。(A) </div>
25		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;"> <p>今後の大輔との関係を考えたとき、本当に言えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係が崩れるかもしれないので、やっぱり言えないかも。(45) ・助けてもらったので、次は助けてあげないと。(A) ・関係が崩れたとしても、今後の大輔のためには言うべき。(61) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大輔のためになるのは、どちらだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その後の大輔のためを考えると、言うべきでない。(33) ・言いたいけれど、言えないと思う。(A) ・同じ失敗を繰り返さないように、きちんと言うべき。(B) </div> <p style="font-size: small;">※「友情」に関する意見をピックアップして板書する。</p>
35	3	最終判断を行う。 あなたが研二だったらどうすべきだったでしょう。 言うことが大輔のためになるかもしれないけれど

◎友情の尊さや大切さについて考えることができたか。

きると考えた。

実際の話し合いは、資料3のように「大輔のために」という考えを軸に進んだ。抽出生A・Bともに教師の予想とは反対の考えを発言した。抽出生Aが36で、抽出生B34の「関係がこわれるから言わない」の発言に対し、「Bに反対で、大輔のために言うべき」と発言した。大輔を友達だと思えばこそ言うべきという考えを学級に伝え、生徒Q38やR39の発言につながった。一方、「大輔との関係がこわれるから言えない」とした抽出生Bの発言が、「自分のせいだから言えない」、「恩があるから言えない」という生徒P37・S40・U41のような考えに広がっていったと考えられる。

教師は、抽出生Bに互いに高め合える関係こそ友情だと気づいてほしいと願い、抽出生Aらの「大輔のために」という考えを取り上げ、話し合いを焦点化しようとし、T42のように、「本当に大輔のためになるのはどちらか」と、発問した。

この発問後、生徒たちはすぐに近くの友達と相談をし始めた。友達に考えを伝えたい、友達の考えを聞きたいという気持ちの表れだと思われる。この姿から生徒の思考の流れを切ることなく、話し合いを焦点化することができたと考える。

また、その後の話し合いでは、生徒V44やN45のように「言った方が大輔のためになる」とお互いに高め合おうとする関係こそ友情なのだという価値に近づいていった。事前に生徒の考えを予想し、複数の発問を準備していたことで、生徒の思考の流れを切ることなく、生徒の主体的な学びを支え、道徳的価値観を高めていくことができたと考える。

資料3「授業記録(主発問後の話し合い)」

K26: 言わない。大輔のためにならないと言ったけど、大輔は自分でわかっているから。

A27: 言うべき。カンニングで点がとれても意味がないから。

(中略)

L31: Kと似ていて、カンニングを続けてしまうかも。今後の大輔のためにも信頼できる友だちなら言うべき。

M32: 信頼できる友だちなら、言うべき。

N33: 本当に友情があるなら仲直りできるから言うべき。

B34: 関係がこわれるから言わない。自分が研二なら言えない。

O35: 自分なら大輔に直接言いたい。

A36: Bに反対で、大輔のために言うべき。先生に名前をふせてもらえばいい。

P37: でも、勉強を教えてくれたから言わない。

Q38: 言うべき。友だちだからこそ言って、反省してもらった方が大輔のためになる。

R39: 言うべきです。申し訳ないけど、黙っているのは大輔のためにならない。

S40: 言うべきではない。悪いことだけれど言えない。自分のせいかもしれないから。

U41: 言うべきではない。自分のために教えてくれた恩があるし、言う勇氣はない。

T42: 「大輔のために」という言葉がよく出てきたけど、本当に大輔のためになるのはどっち？

(近く友だちと相談し始める生徒たち)

T43: 話し合った結果意見ある人はどうぞ。

V44: 大輔が反省していたらいいけど、反省していないなら将来のためにならないから言ったほうがいい。

N45: 悪い友情ならいらない。言うべき。



資料4「意見を交わす生徒たち」

② 子どものよさを伸ばす評価の方法 ア ポートフォリオ評価

道徳「傘の下」プリント（9月13日）
28番 名前 八木 愛海

○ルールは何のためにあるのだろう。

〈学習前〉 回り：かいわいでまわりたいようにする。	〈学習後〉 回り：むきだしはかいて 自分自身も嫌な思いもしないようにするための約束でもあると思う。
------------------------------	--

○女性の様子を見て、「ぼく」はどんなことを考えただろう。

もしもたら あかあかの傘がもしも嫌いし、もしもどうしたら、勝手に持ち出したしとやばいかな。

●同じ状況にあったとき、あなたならどうしますか。それはなぜですか。

おとなくあったとしても、強めの傘がもしも嫌いから勝手に帰るのほうがいいと思う。

○授業の中で大切だと思ったことを書こう。

いくらあんなに嫌でも強めをやってたのが責任が大きいと思う。

・自分の意見を伝えることができましたか。 A B C D

・友達の見解をしっかりと聞くことができましたか。 A B C D

・友達の見解で「なるほど！」と思った意見がありましたか。 あり なし

〈その意見を書いておこう〉
なれた自分が悪い！

〈なるほど！と思ったポイントを書いておこう〉
なれることより強もこののが絶対ダメ！

資料5 「ワークシートの実践例」

道徳「乱れたスリッパ」プリント（9月22日）
24番 名前 松田 孝祐

○「助け合う」とは？

〈学習前〉 イカ、信箱、郵便 履は、風船カ、	〈学習後〉
------------------------------	-------

○あなたは、どう思いましたか？マルで囲みましょう。

一緒にスリッパを並べる ・ 黙って見守る

○その理由を書いてください

「自分もおんな役になって世間に関わりたい。」って言う。
断られたら黙って見守る。

●今日の授業の中で大切だと思ったことを書きましょう。

一緒にスリッパを並べる
たしかにほまかひを とってしよう ようにも思えるけど、
「おんなはから」 という理由で 見守るのほ たしか
「おんなはから」 という理由で 見守るのほ たしか
「おんなはから」 という理由で 見守るのほ たしか
って 一言 かけるとか 大丈夫じゃないE」と思う。

・自分の意見を伝えることができましたか。 A B C D

・友達の見解をしっかりと聞くことができましたか。 A B C D

・友達の見解で「なるほど！」と思った意見がありましたか。 あり なし

〈その意見を書いておこう〉

〈なるほど！と思ったポイントを書いておこう〉

毎時間、資料5のような共通様式のワークシートを活用し、ファイルに蓄積している。ワークシートには、授業前後の生徒の道徳的価値に関する考えを記入できる欄を作り、資料6のように学習前後の考えの変容を読み取る

資料6 「学習前と学習後の生徒の変容」

資料名	項目	質問内容	学習前	学習後
傘の下	公德心	ルールは何のためにある？	周りに迷惑をかけないようにする。	周りだけではなくて、自分自身も嫌な思いをしないようにするための約束でもあると思う。
乱れたスリッパ	思いやり	助け合うとは？	協力し合うこと。相手がつらいときに助けてあげて、自分がつらいときに助けてもらう。	人の気持ちを考えて、協力すること。

ることができるようにするとともに、関わり合いを意識して授業をすることができたかの自己評価欄を設けた。ワークシートを返却する際には、生徒のよさを見つけ、励ましの言葉を記入していく。また、授業のスタイルによって、生徒が考えを深めやすくするために、資料5のように必要に応じて工夫を加えて活用した。

イ ルーブリック評価

1時間の授業での生徒の変容を評価するために、資料7・8にあるように「わかる」「つなぐ」「生かす」という3段階で評価基準を作成している。作成したルーブリックをもとに、授業内での発言の様子、ワークシートへの記載事項等から評価を行う。

資料7 「ルーブリック評価の基準」

わかる	つなぐ	生かす
<ul style="list-style-type: none"> 教材（資料）に含まれる道徳的価値の存在に気づいたり、考えたりする。 道徳的価値の内容がわかり、大切なことだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値と過去や現在の自分をつなぐ。 道徳的価値同士の関係を捉える。 自分と友達の間を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「わかる」「つなぐ」を踏まえた行動をしようとしたり、できたりする。 生活をよりよいものにしようとする努力したり、工夫したりする。

資料8「ループリック評価の実践例」

1年	わかる	つなぐ	生かす
A(3) 向上心、 個性の伸長	向上心をもつことの 難しさに気づくことが できる。	向上心をもつ難しさ に対して、どう向き 合っていくべきか考え ることができる。	弱い自分と向き合い、前 向きに生きていくために勇 気をもって一歩踏み出そう とする気持ちをもつことが できる。

ウ 評価の実際

実際に授業を行う際に次の資料9のようなループリックを作成した。その授業の中で、生徒の考えが記載されたワークシートを用いて、次の資料10、11のような文章表記での評価を行えるのではないかと考えた。

○11月16日実施 2年生 資料名「研二の迷い」[B(8)友情]
 ○ねらい 真の意味での友情や友情の尊さについて考えさせることで、相手の成長を心から願って互いに励まし合い、忠告し合える信頼関係を育成する。

資料9「作成したループリック」

2年	わかる	つなぐ	生かす
B(8) 友情	友情の尊さや大切さについて考えることができる。	励まし合い、忠告し合える信頼関係を築くことの大切さに気づくことができる。	真の友情について考えを深め、互いに高め合う関係を築いていこうとすることができる。

資料10「<わかる>段階の評価例」

●最終判断をふくめ、今日の授業の中で大切だと思ったことを書きましょう。

先生に言うべき ・ 先生に言うべきでない

先生に、もしかしたらカンニングをしてた所を見たことを伝えて、大輔に自分から話してみる。それで、大輔が認めて大輔が反省するなら、大輔本人から先生にカンニングをしたことを伝えた方がいいと思った。

反対意見を聞いて、友達のために答えることはオモいだと思います!!

➔

【評価文例】

友達の意見に耳を傾け、友情の大切さや友達のことを思うことの尊さを知りました。

資料11「<つなぐ>段階の評価例」

●最終判断をふくめ、今日の授業の中で大切だと思ったことを書きましょう。

先生に言うべき ・ 先生に言うべきでない

いけなしいことは、いけなしいって言い合えることが

“友情”だと思った。

〇〇くん が言ってきた時に、先生に話して、その関係が くつなぐための友情は、本当の友情じゃないと思う。

その友情は捨てた方がいいと思う!!

➔

【評価文例】

仲良くするだけが友情の形ではなく、時には互いに忠告し合い、高め合える関係を築くことの大切さに気づきました。

○「友情」とは?

<学習前> 糸半	<学習後> <u>間違いを正せる</u> 関係
-------------	-------------------------------

こうして実際に評価を行ってみると、<生かす>段階の評価については、1時間の授業で評価することは難しいことがわかった。そこで、ポートフォリオ評価を活用し、道徳の授業だけでなく、今後の学校生活全体での言動を継続的に観察したり、生徒の振り返りを蓄積したりしていく中で、評価につなげていけるのではないかと考えた。

資料 12 「<生かす>段階の評価例」

資料 12 は、生徒 C の事例である。生徒 C は、6 月 10 日の授業で集団生活とは「みんなで協力し合うこと」と考えを深めた。さらに、10 月 11 日の授業で「友達」について考え、「正しいことをした方がいい」という考えをワークシートに書いた。その後、合唱コンクールに向けた合唱練習の中で、級友に対して「静かにして」という呼びかけを自ら行うことができた。その行動を見た生徒 D は 2 学期の振り返りにおいて、学級の MVP は生徒 C であると書いた。これまで注意される側だった生徒 C にとって、大きな成長であったと考えられる。

③ 学校教育全体で取り組む道徳教育

道徳の授業と生徒の実生活を関連付けることができれば、生徒が授業での学びを生かして道徳的実践力を高めることができるだろうと考えた。そこで、資料 13 のように道徳と総合的な学習の時間、特別活動、他教科等と関連付けて実践を行った。

資料 13 「2 年生別業より一部抜粋」

道徳	総合	特別活動	国語	社会
【6 月】 C (16) 郷土を愛する 態度 [わが街]	【6, 7 月】 決戦場祭り 役割練習 小中合同練習	【6 月】 TC 講座 地域の方々から 学ぶ	【5 月】 枕草子 オリジナル文を 作ろう	【6 月】 歴史 長篠・設楽原の 戦い

ア 総合的な学習の時間との関連「設楽原決戦場まつり」

学区で行われる「設楽原決戦場まつり」を前に、地域の一員としての自分を見つめ直すことができるように、2 年生で、資料「わが街」〔C (16) 郷土を愛する態度〕を用いて授業を行った。

「東郷地区は好きか。」という発問に対して、生徒 F は授業冒頭「ふつう」とだけ答えたが、授業後の振り返りでは「自分たちにしかできないものを大切にしたい」との思いをまとめた。友達との話し合いを通して、郷土に対する新しい思いの芽生える様子が見られた。

授業後 2 週間にわたり、総合的な学習の時間を中心に「設楽原決戦場まつり」に向けた演武の練習が行われた。

○「東郷地区は好きか？」

生徒F ワークシートより

〈学習前〉

ふつう

〈学習後〉

自分にはしかできないから、大切にしたい。

新しい価値観の芽生え



学びの実践

決戦場まつりを終えて 7月2日(日)

番 名前

○決戦場まつりの練習・発表を通して学んだこと・成長できたこと

決戦場まつりは、道徳でもおなじみの東郷地区の小中学校にか

けるまつりで、毎年行われる。これは最後のまつりなので、

練習からがんばって取り組むことができてよかった。

練習では、早く学んで、ほかの同じ曲をせよといわれて、

がんばりました。発表のときは、ほかの人よりも上手に演奏

することができました。今回の決戦場まつりの練習では、

みんなと協力して、10分間をやりあげることができました。

とても、今回の練習を自分からとって、楽し

ました。

生徒F 総合的な学習の時間 振り返りより

生徒Fは、太鼓の演奏を披露する「夢太鼓」の一員として、早朝の自主練習から集中して練習に取り組むことができた。生徒Fの「設楽原決戦場まつり」後の振り返りからは、「自分にはしかできないことを大切にしたい」との学びを実践することができたことを読み取ることができる。

イ 特別活動との関連「東中笑顔計画」

道徳の授業と生徒会執行部が選挙公約として掲げた「東中笑顔計画」を連携させて進めることにした。

東中笑顔計画

- ねらい 全校生徒に友達のよいところを記入させることで、日常生活ではなかなか気づかない友達のよいところへ目を向けさせる。
- 内 容 ・友達同士で互いのよいところを見つけ、それらを用紙に記入する。
・生徒会執行部が用紙を掲示する。
- 関連する授業
 - ・6月2日(金) 思いやり・感謝 題材「背番号10」
 - ・10月12日(木) 相互理解、寛容 題材「あいつの一言」

6月2日の授業では、生徒会執行部が活動を始める前に思いやり・感謝に関わる生徒の道徳的価値を高めたいと考え、3年生では、資料「背番号10」〔B(6)感謝〕を題材とし、授業を行った。

生徒G 6月2日 授業の振り返り

人はずっと怒っているだけだと、他人から嫌われてしまう。時には他人を心から褒めたり感謝の気持ちを伝えたりすることができれば、信頼関係ができる。

生徒G 東中笑顔計画での友達へのコメント

〇〇さんが理科係を一人ががんばってこなしていることがすごいいいと思いました。

生徒が授業後に記入した東中笑顔計画のコメントを見てみると、温かい言葉や感謝の気持ちを伝える言葉が書かれていた。しかし、生徒Gを含む多くの生徒が、級長や部長として目立って活躍している生徒に対する内容を記入した。よく目立つ一部の生徒だけでなく、すぐ身近にいる友達のよさ、普段は気づかないままになってしまう友達のよさに目を向け、そこから謙虚に学ぶ機会としたいと考え、資料「あいつの一言」〔B(9)相互理解〕を題材に10月12日の授業を行った。生徒Gは、その後再び行った東中笑顔計画では、隣の席の友達のよさを見つけ、記入することができた。

生徒G 10月12日 授業の振り返り

自分の気持ちに素直になることが大切だなと思いました。例えば、あまり良いところを知らない人の良い点を見つけた時、その人を素直に認めてあげることが大切だと思いました。

生徒G 東中笑顔計画での友達へのコメント

友達と仲良くすることができ、気遣いができる。発言する時もしっかり手を挙げている。

授業を通して道徳的価値を高めた上で「東中笑顔計画」を実施したことで、友達のよいところに気づくだけでなく、生徒が実際に友達への感謝を言葉にし、友達との絆を深める機会となった。

5 研究の評価

(1) 研究の成果

① 道徳の授業の工夫

指導案作成の段階で座席表を作り、授業展開を考えたことにより、より生徒の実態に合わせた授業を行うことができるようになった。また、毎時間略案を作り、ねらいをもって道徳の授業実践を行ったことにより、生徒自身もより多くの友達の意見を聞いたり、友達の前で意見を伝えたりすることができた。その積み重ねにより、より活発な道徳の授業を展開できるようになったと考えられる。

② 道徳の授業の評価の在り方

ルーブリック評価を取り入れ、指導案を作成する段階で評価基準を明確にしたことで、授業のねらいがより明確になることがわかった。また、学校の教育活動のさまざまな場面で記録をとるポートフォリオ評価を取り入れることにより、1回の授業では評価しきれない道徳的判断力や実践力について

でも評価が可能となることもわかった。

③ 学校教育全体を通じた道徳教育の推進

年間の行事に合わせて内容項目を選択し、授業を実践することにより、生徒にとってより身近で有意義な授業にすることができた。行事实施後に振り返りを書かせることで、生徒自身も成長を確認することにつながるのではないかと考える。

④ 外部講師による指導

4回の授業研究会に外部講師として、松井伸市先生をお招きしてさまざまな指導をいただいた。その中で、「ワークシートをベースにしなが、授業の骨組みを作り、評価するというフォームができ上がっている」「どの学年・どの学級でもできるということは、学校の研究として大切なことであり、生徒も安心し、安定して授業を受けることができる」という一定の評価をいただくことができたことは、大きな成果であると言える。



資料14 事後検討会の様子

(2) 今後の課題と取組

外部講師の松井先生から授業のフォームが確立したことにより、ある一定のところまでは生徒は伸びると思われるが、積み重ねていくことで生徒自身が物足りなさを感じるようになるのではないかとのご指摘をいただいた。各学年の学習段階に合わせて道徳的価値の深まりを求めていくためには、教師側がどのような支援をしていけばよいのか、そのために授業をどのように工夫していくかについて、これまで以上に考えていかなければならない。

また、教師の発問による話し合いの中から、生徒自身が新たな問いを見つけて解決していくような問題解決型の授業を目指すことも大切であるとの指導を受けた。来年度以降の授業形態の一つとして取り組んでいきたい。

評価については、文章による表記についてもいろいろ検討してきたが、それが有効なのかまだ検証することができていない。来年度以降、実際に経験していく中で、より効果的な評価の方法を模索していく必要がある。

道徳年間計画別葉の作成にも取り組み、一部では、地域行事、総合的な学習の時間、他の教科等と関連づけながら実践を行うことができたしかし、多くの部分で関連付けを行うことが十分にできなかった。学校教育のあらゆる場面で道徳的価値を常に意識しながら、活動に取り組んでいくことでより実践的な別葉を作成する必要がある。